

## A-03-4

### 難治褥瘡へのペムベストの効果

#### —PEM 状態の遷延性意識障害褥瘡患者における経験—

<sup>1</sup> 広南病院東北療護センター, <sup>2</sup> 同看護部, <sup>3</sup> 同栄養管理部, <sup>4</sup> 同脳神経外科, <sup>5</sup> 宮城大学看護学部

○大友昭子<sup>1</sup>, 斉藤薫<sup>1</sup>, 佐藤知子<sup>2</sup>, 五十嵐祐子<sup>3</sup>, 中里信和<sup>1</sup>, 長嶺義秀<sup>1</sup>,  
藤原悟<sup>4</sup>, 徳永恵子<sup>5</sup>

【はじめに】褥瘡は予防が第一といわれるが, 発生した褥瘡には早期発見・早期治療のほか, 栄養管理がきわめて重要である。今回, 遷延性意識障害患者の難治褥瘡に対し, ペムベストを使用することで治癒に向かった症例を経験したので報告する。【症例】25歳女性。自動車事故により遷延性意識障害となり, 仙骨部にⅢ度の褥瘡を形成した状態で受傷から9ヶ月後に当センターに入院した。皮下脂肪の減少および筋肉の喪失が著しく, 関節の拘縮も強く認められた。血液検査のデータでは, Hb, Tp, Alb の値も低く, PEM(タンパク・エネルギー栄養失調)の状態と考えられた。褥瘡は難治性で, 治癒がなかなか進まなかったため, 入院8ヶ月目より, 蛋白質・亜鉛・ビタミンが多く含まれているペムベストを使用した。その結果, 体重の増加, 褥瘡サイズの顕著な縮小を認め, ペムベスト使用後5ヶ月で完全治癒に至った。【考察】難治性の褥瘡には栄養管理が重要視されるが, 今回使用したペムベストはPEM状態を改善し, 褥瘡の治癒過程を促進できたと考えられた。本症例の臨床経過から, 褥瘡治療における栄養管理の重要性を再確認させられた。